（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスMARBLE			
○保護者評価実施期間	3/10/2026	～	3/23/2026	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	12	（回答者数）	10
○従業者評価実施期間	3/10/2026	～	3/23/2026	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5	（回答者数）	5
○事業者向け自己評価表作成日	3/30/2026			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの発達段階に応じた専門的な支援が提供できている。	子どもの発達段階に応じた支援を行うため、個々の特性や課題を把握し、それに応じた支援内容の工夫を行っている。また、日々の支援を踏まえながら柔軟に支援方法の見直しを行っている。	アセスメントの精度を高めるとともに、支援後の振り返りや事例検討を通して支援内容の見直しを行い、より適切な支援に繋げていく。
2	訪問支援の充実により、利用者の生活環境に即した柔軟な支援が提供できている。	訪問支援においては、利用者の生活環境や日常の流れを踏まえ、無理のない支援計画を立てている。また、その場の状況に応じて支援内容を調整し、実生活に活かせる支援となるよう意識している。	訪問先との情報共有や連携をさらに強化し、日常生活により定着しやすい支援の工夫を行っていく。

3	職員の経験や知識を活かし、安定した支援体制で支援が提供されている。	職員のこれまでの経験や専門的知識を活かしながら支援を行っている。また、情報共有を蜜にし、安定した支援が継続して提供できるように工夫している。	職員研修や情報共有の機会を充実させ、より質の高い支援が提供できる体制づくりを進めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援内容や対応方法において、職員間でばらつきが見られる場合がある。	支援方法の統一に関する確認や共有の機会が十分に確保されていないことや、個々の経験に基づいた対応に依存する傾向が、ばらつきの要因と考えられる。	職員間での情報共有や支援方針の確認を定期的に行い、対応方法の統一を図る。
2	職員間の連携や役割分担が十分に整理されていない部分がある。	業務分担の明確化や共通理解が十分でないことが考えられる。また、個々の判断に依存する場面があると考えられる。	職員間の役割分担や連携方法の明確化を図るとともに、定期的な会議や情報共有の場において、共通認識の下で支援が行える体制づくりを進める。
3	業務負担により、十分な時間確保が難しい場合がある。	支援業務に加えて記録や調整業務が重なり、業務全体の負担が増加していると考えられる。	業務内容の整理や優先順位ん見直し行い、効率的に業務を勧められるよう改善を図るとともに、職員間での業務分担に適正化に努める。